

(2) 特定鳥獣保護管理計画(案)に係る意見の概要と県の考え方

ア 特定鳥獣保護管理計画(ニホンザル)

NO	該当部分	提出された意見の概要	県の考え方
1	7 (2)	サルの群れによる被害で1年中泣かされている。木材価格が下がってからは、山の手入れがほとんどされていないことが主な原因である。国や県の補助金を付けて、山の手入れを計画的に行うことが必要である。	昨年度に現地調査を行ったサルの群れは、行動域の大半が人家周辺であったことが分かりました。 サルによる被害を軽減させるためには、地域住民全体での追払いは効果が認められています。また、捕獲については、団体でのワナによる捕獲の場合、狩猟免許を有しない人も捕獲に参加することができます。銃については、農家の方も使用可能ですが、銃猟の狩猟免許は必要不可欠です。 なお、森林の整備を進めるため、国や県は補助事業を設けています。
2	8 (1)	サルの個体数を減らすためには、町全体での追払いの実施や農家がワナだけでなく銃も使用可能とするなどの対策が必要である。	

イ 特定鳥獣保護管理計画(ニホンジカ)

NO	該当部分	提出された意見の概要	県の考え方
3	5 (1) ①	ニホンジカの行動について、マーキングは尿が主であり、中足腺だけでなく、体全体でこすりつける。 また、被害は、樹皮剥ぎよりも角こすりの方が深刻である。	マーキングや被害状況について修正します。
4	7 (2)	森林の下層植生を導入するため間伐を行っているが、下層植生はシカの食害を受け消滅又は樹高成長を抑えられている。 環境整備を進めてもシカを呼び寄せ、食害が増加するのではないか。	環境整備を進める際には、個体数調整や被害防除等と同時に行い、森林内で適正な個体数が生息できる環境をつくることで、人との棲み分けを図ります。

ウ 特定鳥獣保護管理計画(カモシカ)

NO	該当部分	提出された意見の概要	県の考え方
5	5 (1) ③	「カモシカによる農業被害はほとんど報告されていない」とあるが、ニホンジカによる被害と区別することが難しく、農作物被害はニホンジカによる被害と報告されている。林業被害だけでなく農業被害についても検証し、適切な個体数調整を行うべきである。	カモシカについては、林業被害に加え農作物被害についても情報収集に努めます。